



ArtemiS SUITE
Signal Processing

Code 51501_51502

ASP 501/502 主観テスト - SQala Net/SQala サーバー

ArtemiS SUITEのASP 501とASP 502は、主観テスト - SQala ベーシック (APR 500)を拡張し、複数の被験者対象のリスニングスタジオや分散型セッションでリスニングテストの管理、実行が可能です。

概要

ASP 501 主観テスト - SQala Net

Code 51501

ASP 502 主観テスト - SQala サーバー

Code 51502

ASP 501 と ASP 502 は、モジュール式 SQala 主観テストソフトウェアの拡張機能です。主観テスト - SQala ベーシック（APR 500）で作成された SQala リスニングテストは、リスニングスタジオや分散型セッションで複数の被験者により実施できます。

フィーチャー

ASP 501とASP 502は、複数の被験者によりリスニングテストを実施する為のAPR 500の拡張機能です。

＞ APR 500のライセンスが必要です。

ASP 501により以下が可能です：

- ＞ SQala セッション管理
- ＞ リスニングテストのインタラクティブなモニタリングと管理
- ＞ リスニングテスト中のすべての参加者のステータス表示
- ＞ SQalaサーバーマネージャー
- ＞ SQalaプロジェクトの管理と保存のための機能的サーバー
- ＞ リスニングスタジオでのセッション提供
- ＞ SQalaサーバーとSQalaクライアント（被験者）間の簡単な接続確立

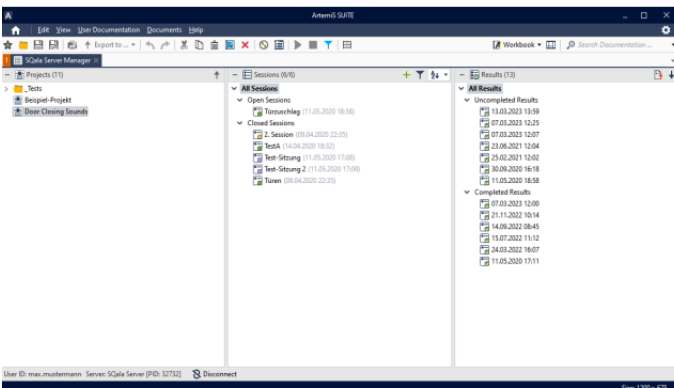
ASP 502はSQala Net（ASP 501）リスニングテストを実施する為のSQalaサーバーとライセンスを提供します。

SQalaクライアントを各リスニングテスト実施場所（PC、タブレット等）にインストールする必要があります。

- ＞ フルタッチスクリーン対応
- ＞ ライセンス不要

アプリケーション

- ＞ ベンチマーキング
- ＞ ターゲットサウンドの定義づけ
- ＞ 製品音の最適化



詳細

主観テスト - SQala Net (ASP 501)

SQala セッション管理

SQala Netを用いることにより、APR 500で作成されたリスニングテストを、リスニングスタジオで複数の被験者により（個別モードまたはグループモード）、或いは分散型セッション（実施場所が分散したシステムや、リスニングスタジオ内の複数の場所でいつでもセッションに参加できるスタイル）で実施することができます。テストリーダーには、複数の制御ツールが提供されます。

リスニングテストの監督者には、SQalaセッション管理が簡単なモニタリング及び管理用ツールとして提供されます。

このツールは、テストリーダーがすべてのリスニングテストのステップを完全に管理し、把握するのに役立ちます。彼らはいつでも介入でき、特定のステップを解除したり、新規の被験者を追加することができます。

被験者が意図に反して再生内容に変更を加えた場合、監督者に自動的に知らされます。

グラフィックインターフェースは、各被験者の進捗状況やリスニングテストの完了状況を常に表示します。ツールチップは、参照された音声ファイルの数等、追加情報を提供します。リスニングテストの結果は、さらなる処理のためにExcelにエクスポートすることができます。

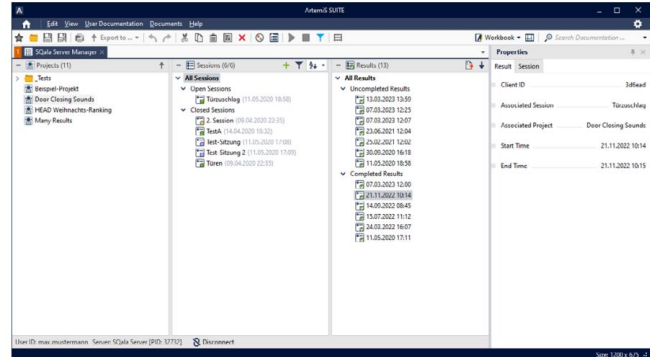
SQala サーバマネージャー

SQalaサーバマネージャーは、リスニングスタジオや分散モードで複数の被験者にセッションを提供し、セッション結果を保存する為に利用されます。

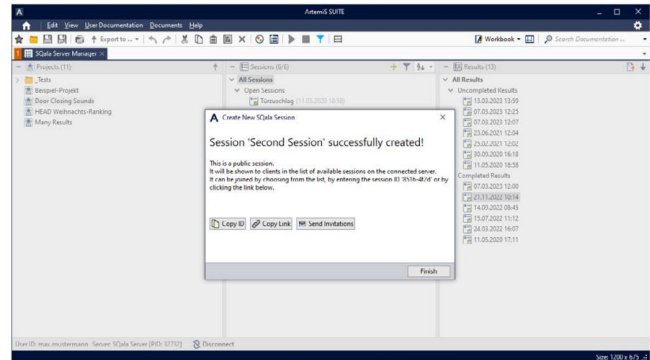
SQalaサーバーとSQalaクライアント（被験者）との接続確立は迅速に行われます。

主観テスト - SQalaサーバー（ASP 502）

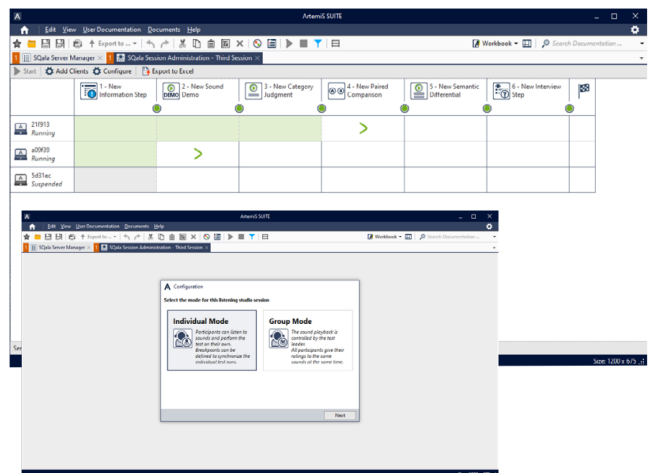
主観テスト - SQalaサーバーは、SQala Net (ASP 501) リスニングテストを実施する為のSQalaサーバーを提供します。



サーバマネージャーによりリスニングテストの結果を管理



リスニングスタジオセッションの作成



セッション管理により個別モードでリスニングテストを管理

スタジオ管理

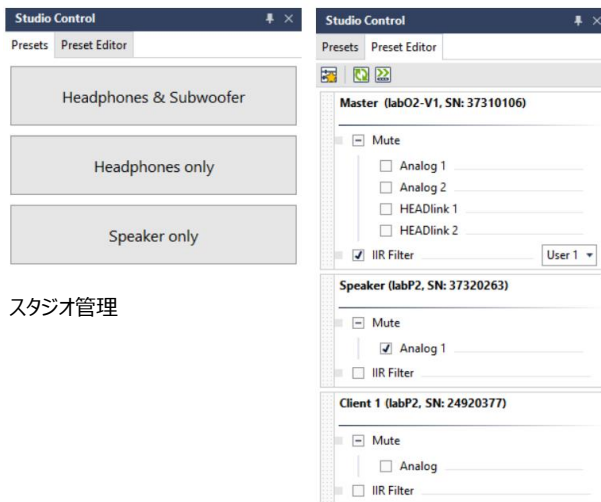
スタジオ管理（APR 110が必要）は、リスニングスタジオでの利用の為にHEAD acousticsの再生モジュールとヘッドフォンの設定を素早く行います。

ユーザーは、異なる再生シナリオ（再生モジュールの信号分配とフィルター設定）を編集、保存できます。個々のリスニングスタジオ設定を構成した後、ユーザーは複数の設定条件間をワンクリックで切り替えられます。再生フロントエンドの信号分配と個々のフィルター設定は自動的に調整されます。

リスニングスタジオの為に聴感に忠実なバイノーラル再生

リスニングテスト中に被験者が音を正しく判断できる為には、再生音が音響的に正確でなければなりません。これを実現する為に、HEAD acousticsはSQalaに完璧にマッチする複数の再生モジュール、ヘッドフォン、スピーカーを提供しています。

- ＞ HEAD/lab 再生モジュール
 - ＞ labP2 (Code 3732)
 - ＞ labP2-V1 (Code 3732-V1)
 - ＞ labO2 (Code 3731)
 - ＞ labO2-V1 (Code 3731-V1)
- ＞ HEAD acoustics推奨ヘッドホン
- ＞ スピーカー
 - ＞ HPL (Code 2968)
2 x 高精度スピーカー
 - ＞ HSW I (Code 2950)
HEAD サブウーファー

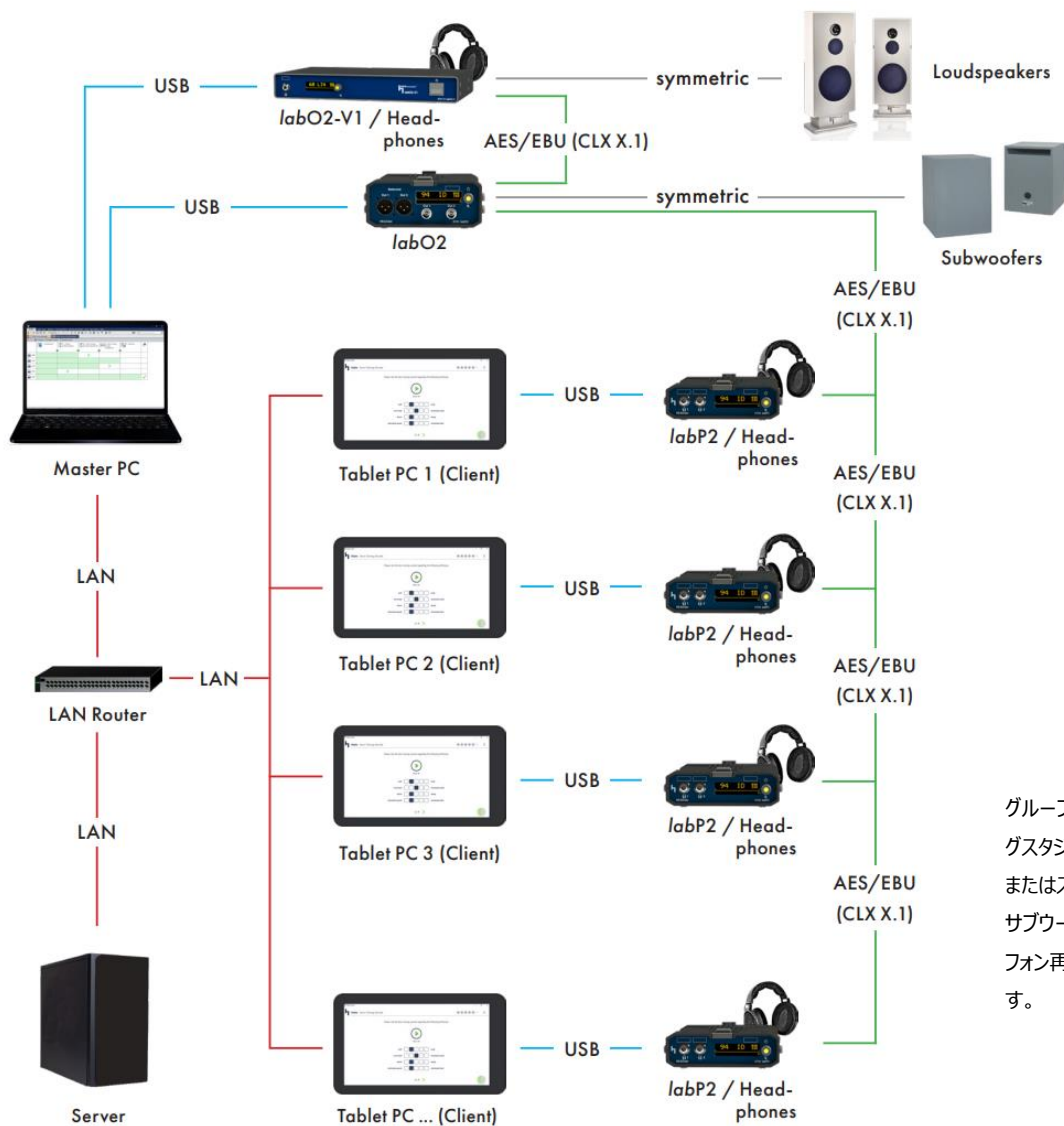


スタジオ管理



再生モジュールlabO2とlabP2は、リスニングスタジオに最適です。2つのイコライジングされたヘッドフォンをlabP2に接続することで、聴感に忠実な再生が可能です。labO2はスピーカーによる聴感に忠実な再生を実現し、サブウーファーは低周波数帯でのヘッドホン再生をサポートします。

システム構成例



グループモードを利用したSQalaリスニングスタジオのシステム構成例。ヘッドフォンまたはスピーカーから音が再生されます。サブウーファーは、低周波数帯でのヘッドフォン再生をサポートする為に利用されます。

要件： APR Framework (Code 50000)
and/or: HEAD システム統合 & 拡張
(ASX) プログラムインターフェイス



お問い合わせ

〒240-0005 神奈川県横浜市保土ヶ谷区神戸町 134
横浜ビジネスパークウエストタワー 8F

電話： 045-340-2236
Eメール： headjapan@head-acoustics.com
ウェブサイト： www.head-acoustics.com